

「にいつ鉄道まつり」を開催!!

10月9日(土)、JR新津駅東口駅前広場において「にいつ鉄道まつり」が開催されました。



この「にいつ鉄道まつり」は、新津地域固有の鉄道の歴史及び文化を県内外に広くPRすることにより、新津地域に多くの観光客誘致を図り、他市町村にない地域振興及び活性化に寄与することを目的として毎年実施されています。

午前10時のオープニングでは馬場について鉄道まつり実行委員会会長(新津観光協会会長)、続いて藤田秋葉区長よりあいさつがありました。

小雨の中、ミニSLの運行、鉄道クイズ、鉄道パネル展示、合唱や踊り・大正琴等のステージイベントが行われ、大勢の家族連れで賑わいました。

また同日は、磐越西線新津〜馬下間が開業100年を迎えたことを記念して、午後1時33分には、SLばんえつ物語号が名称を変更し「SL新津馬下100年号」として新津駅1番線ホームに到着しました。

この列車の乗客の皆さんを歓迎し1番線ホームでは「秋葉太鼓松風会」による演奏でお出迎えしました。



記念しJRでは「新津〜馬下間100年記念入場券セット」を発売しました。これは、2,000セットの限定発売となっており、台紙付きで同区間内7駅の記念入場券(硬券)がついています。(販売は、JR新津駅)

第4回 にいつハロウィン仮装まつりを開催!!

去る10月10日(日)に、新津本町通りで「第4回にいつハロウィン仮装まつり」が開催されました。

当日は天候が危惧されましたが奇跡的に好天に恵まれ、昨年度を上回る来場者があり、成功裡の内

に終了することができました。当日は多くの方が仮装をし来場され、昼は仮装コンテストやスタンプラリー、子どもたちが楽し

2010新津あおぞら市場(秋)を開催!! 新津本町通り大いに賑わう!

去る10月17日(日)に、秋葉区最大級のフリーマーケット・朝市「2010新津あおぞら市場(秋)」が開催されました。このイベントは新津商工会議所「商店街活性化プロジェクト」が企画し、今回が6回目の開催となります。

当日は、晴天に恵まれた事と、にいつ食の陣当日座同時開催ということ

で、新津本町通り会場は開催以来、過去最高の人数があり、出店者数も募集区画数を大幅に上回る160区画以上もの出店者が立ち並びました。歩行者天国と化した会

場には「モノを売りたい方が、いつでも自由に売買できる『蚤の市』」をキーワードにさまざまな方が集結。一般の方が不要になったモノを販売するフリーマーケットを中心として、店舗販売されている事業者が自店の商品を持ってきて販売したり、農家の方が野菜や果物、花卉花木を持ち寄って販売したりと、とにかく多種多様な品物が販売されました。



このイベントを盛り上げようと新津商工会議所青年部の協力による「ビング大会」をはじめ、「FMにいつの公開生放送」や「商店街イチオシオークション」なども行なわれ来場者はそれぞれ楽しんでおりました。次年度も継続して開催していく予定です。開催日等が決まり次第、紙面等でお知らせいたします。

新潟県モンゴル訪問団紀行②

2010年8月14日(土)〜18日(水)

新津商工会議所

常議員 遠山悦男

(株)ロビンサービス取締役会長

16日、バトカーの先導で、外交貿易省、食糧省、農牧業省、軽工省、モンゴル日本大使館表敬各省を訪問して感じたことは、建物設備を始めこれからの発展途上国であると感じた。場所によっては、社会主義時代の考えられない様な古い建物が使われていた。なんともなく郷愁がわく。食糧、農牧省ではヨード欠乏対策への支援、ヨウ素の3年間無償提供(モンゴルでは人口80%の人たちが低ヨウ素の為に健康を害している。ヨウ素は海草などに多く含まれ、甲状腺の働きを支える為に欠かせない栄養素。モンゴルは海が無いためヨウ素不足である。)日本大使館では城所大使が日本とモンゴルの現状を話してく

れた。今、世界は、モンゴルの資源開発をめぐって、さまざまな外交を繰り広げている。新潟から4時間半のモンゴル、新潟〜モンゴルの交流が今後期待されている。今、新潟の大学には30人の留学生がいる。五泉市では、約10年前から子供青少年の交流が続いている。

今回、伊藤市長、土田議会議長2人が同行した。午後は行政機関訪問コースと企業訪問コースに分かれて行動した。私達は、昨日片岡さん達が訪れたイヒガザル農園を視察。農園は、ダヴァスレン社長(44歳、22歳の時1人で農園を始めた。)今では、4人の兄弟で7つの会社を営んでいる。冬にはマイナス30度になるウランバートルでは、農園全体100m×200m位もある暖房付のハウスである。暖房費の為に経営は大変だそうだが頑張っており、兄弟3人が5,700ccのレクサスやランドクルーザーに乗っている。中国野菜は、価格が安いのが安全性の問題で売れ行きが悪いそう。資本主義になって倒産者も多いが成功者もいる。

ウランバートルの街では、繁華街の歩道真ん中で眠っている子供を見た。誰も振り向きもしない。繁華の陰には今1,500人の浮浪児がいるそう。冬は暖房用マンホールの地下で生活している。

今、日本でも、爺浪児が社会問題になっている。いつの間にか、こんな日本になってしまった。2年前、ウラジオストクに行った時、500人も使用人がいる農業経営者が寂しそくに語っていた。「資本主義になって言論行動は自由になり、沢山の会社が設立された。しかし、その後、多くの会社が倒産した。社会主義の時は集団農業(コルホーズ)、農業は貧しかったが、倒産の心配も無く皆が貧しいが、それなりに楽しい社会だった。同じような事をバートルさんが語った。25年前までは、ゲルに住んだり大変でした。しかし、強い父親の元に絶えず笑い声があり、楽しい家庭だった。その言葉に昭和20年頃の、何も無かった私達の生活を思い出して私も懐かしく感じた。今は平均月収15,000円前後、公務員で2万円〜5万円位。携帯電話や電化製品、車、大変便利になったが生活は大変格差が生じている。今から37年ほど前にモンゴルを旅した作家司馬遼太郎氏のモンゴル紀行によると、街にカメラを忘れて翌日行ったらそこにカメラがあった。それが、それくらい治安が良かった。今回、ガンタン寺やデパートでは、ガイドがうるさい程何も「スリに気を付けて下さい。」と叫ぶその声に私は虚しさを感じた。その後、カシミヤ工業見学、昔の紡績工業、五泉のメリヤス会社を思い出す大勢の女工が働いていた。

夜は、ウランバートル市との交流会が行われた。会場では馬頭琴の演奏と、ホーミーの歌を聞く。交流会はウランバートル第一副市長等の参加により行われた。17日朝4時5分、知事は公務の為帰国、大阪周りで新潟の夕方6時頃到着との事。17日、訪問団の皆さんはJICA他の幾つかの企業訪問をする。私達3人は、バートルさんの奥さんの案内で70km先のテレルジを訪れる。テレルジはモンゴル人や外国人が多数訪れる保養地である。郊外に出ると辺りは樹木が多くなり岩山や岩壁が見られるようになる。途中に、メーラー川の橋を渡る。この川は、遙かバイカル湖に続いている。途中、大きな亀石がある。テレルジは、沢山のゲルがあり、宿泊施設が多く、乗馬やトレッキングが楽しめる。途中、ラクダに乗る事もできる。草原の中には、ヤクの群れも見えた。

午後、急いでウランバートルに帰る。昼食はモンゴル料理、運転手の食事は、日本のぶりカマと同じ羊の頭を二つに割った羊カマが出たのには驚いた。文化の違いは大きい。午前中、部屋で勉強していた片岡さんが、イヒガザル農園へ農業指導にバートルさんの奥さんを連れて出かけた。私達は政府官邸前広場、民族歴史博物館を見学。その後、国立芸術団公演を見る。素晴らしい夕食はイヒガザルの社長が素晴らしい個室のレストランに招待してくれた。大いにモンゴルと新潟の農業交流に話が盛り上がった。

今回の旅はこれで終わりが、大勢のモンゴル人との交流、又訪問団37人の皆さんとの交流も大変大きかった。これを契機に旧新津にある県立植物園にゲルを2個飾りたい。子供たちが喜ぶだろう。できたら、モンゴルの馬5頭連れて来たらモンゴルとの交流が深まるだろう。五泉市長は5頭の羊をモンゴルから貰ってきたそう。帰国後、私が、「馬にすれば良かったね」と言ったら「それは良いアイデアだ。今度馬にする」と笑っていた。あまり長くなるのでこの辺でさよなら。明日は新潟へ帰る。大変ありがとうございました。

ウランバートル市郊外の草原での筆者

